

奈良の駅 シリーズ Vol.15



ご せ  
駅名： JR 御 所 駅



JR 御所駅舎 外観

【駅舎概要】

所在地：御所市 153-2  
区域区分等：商業地域  
構造・規模：木造平屋建 124.4 m<sup>2</sup>  
建設時期：明治 29 年

【沿革】

明治 29 年(1896)：南和鉄道が高田・葛(吉野口)で開業した際に設置  
明治 37 年(1904)：南和鉄道の路線を関西鉄道が承継  
明治 40 年(1907)：関西鉄道が鉄道国有法により国有化  
昭和 62 年(1987)：国鉄分割民営化により西日本旅客鉄道(JR 西日本)の駅へ  
平成 14 年(2002)：簡易委託駅へ当初は無人駅となる予定だったが現時点では市シルバー人材センターの会員が配置されている  
平成 30 年(2018)：IC カード乗車券専用の西口改札が竣工  
平成 31 年(2019)：駅旅客トイレ竣工  
令和 2 年(2020)：駅舎改修工事竣工  
休憩・交流施設「まちかど案内所」がオープン

駅シリーズ第 15 回は、JR 御所駅です。

JR 御所駅は、明治時代の創建当初の駅舎がそのまま残っており、御所まち一帯の貴重な文化的景観をつくる構成要素のひとつです。西部には標高 1,000m 級の金剛山・葛城山が峰を連ね、それらを源とする葛城川水系・曽我川水系の河川が市域を潤しています。

■歴史・周辺環境

名前の由来は、市内を流れる葛城川に五つの瀬があったとする説や、孝昭天皇の御諸が「御所」に変わったとする説があります。「古事記」や「日本書紀」には、現在の市域一帯を本拠地とした大和朝廷時代の豪族葛城氏・巨勢氏に関する記述が多くみられ、史跡・古墳や社寺など歴史文化資源が市内各地に今も多く残されています。近世では、桑山氏の城下町であったことから物資の集積地として、また、寺内町として発達し、今もなお「御所まち」には往時の商都としての面影を残す町並みが形成されています。

「御所まち」は江戸時代初期に形成された陣屋町です。一つの川をはさんで西岸には商業都市の西御所、東岸は寺内町の東御所と二つの町が形成され、江戸時代の検地絵図がいまだに使えるほど、町の形がよく残っています。近世の民家建築を国と県が重要文化財として登録された建物も「御所町」内では存在しています。

中井家住宅：寛政 4 年(1792)築 国・登録有形文化財  
赤塚家住宅：元禄 14 年(1701)築 県・指定有形文化財

■保存・活用等

駅舎は、2017 年 10 月、JR 西日本から御所市が無償譲渡を受けて、2018 年に西口 IC 改札が設置され、2019 年には駅旅客トイレも公衆化改修工事で改札の外から利用できるよう改修されました。更に 2020 年には旧駅事務所と宿直室も改修され、住民と観光客ら多くの人が集まるコミュニティの場として、休憩・交流施設「まちかど案内所」がオープンされました。駅利用の多い中高生が自習できる場所が設けられている他、地元住民が気軽に利用できるスペース、観光などの案内コーナーが設置されていて、便利な駅舎になっています。



西口改札



駅旅客トイレ



まちかど案内所

「御所まち」は江戸初期の町並みが多く残っていることから、重要伝統的建造物群保存地区になるような動きはありますが、具体的な流れは、まだ進んでいません。  
【記：檀原支部 米田 巧】

### ■全国大会 おおさか大会 全般レポート

9月19日、建築士会全国大会「おおさか大会」が、グランキューブ大阪で開催されました。テーマは、「建築からソーシャルデザインへ」です。

この大会へは、奈良県建築士会からは56名が参加しました。午前中は、大阪講演1として『建築の都 大阪～大大阪から未来へ～』、大阪講演2として『大阪府北部における日本庭園回廊の提唱』の開催をはじめ、青年委員会の『地域実践活動発表会』や女性委員会の『思いっきりバージョンUP! Part3』、さらに福祉・環境・木・景観・歴史・空き家・防災のテーマ別のまちづくりセッションや、木の建築賞のセッションが開催されました。その中でも、私が参加した街中(空き家)セッションでは島根県と高知県の具体的な空き家活用の事例を聞くことが出来て大変参考になりました。

また、午後から開催された記念講演会では『循環経済と未来建築』をテーマとして、ドイツのベルリンを拠点とする建築家であるクリスチャン・サンダー・チャージツヒ氏のお話を伺うことが出来ました。クリスチャン氏は、大阪・関西万博2025のドイツ館及びクウェート館の挑戦的なデザインとプロジェクトにおいて主導的な役割を務められました。ドイツ館においては循環の「環(わ)」と調和の「和(わ)」そして感嘆の「わ!」を空間として表現されました。クウェート館では「先見の明かり」をテーマに、クウェート国の特徴的な風景と伝統から着想した独創的な建築物をデザインされたとのことをお話を伺うことが出来ました。

その後に開催された大会式典は、大阪の伝統であるお祭りのだんじりのお囃子で盛大にオープニングセレモニーがはじまり、天神祭りを連想させる賑やかな幕開けとなりました。式典の後半には、様々な表彰式が執り行われて、奈良士会からは五條支部の東さんと天理支部の溜谷さんが連合会会長表彰、天理支部の平川さんが伝統技能者表彰を授与され、大会に参加された多くの奈良士会メンバーの皆さんと一緒にお祝いをする事が出来て、大変和やかな雰囲気の中で全国大会を楽しむことが出来ました。



【記：天理支部支部長 中嶋 孝】

### ■大会式典 表彰

今年度日本建築士会連合会会長表彰を東康朝氏と溜谷剛氏、伝統技能者表彰を平川善久氏が受けられました。受賞者の声をご紹介します。

#### 【五條支部 東 康朝】



この度、全国大会おおさか大会において会長賞表彰をいただき、私にとりましては身に余ることで恐縮いたしております。中尾会長様、役員の皆様には心より感謝申し上げます。この世界に入り五十七年になり、最初に勤務した会社の所長が恩師であり師匠であります。今思えば良き先輩、後輩に恵まれ歩んでまいりました。今後は、もっと高い目標を目指し努力し、設計力、技術力、創造力を磨き精進したいと思います。

#### 【天理支部 溜谷 剛】



この度は表彰して頂いたことを嬉しく思うとともに、皆様のお陰であると強く感じています。今年の3月に天理市の公立小学校で開催されたイベントに参加しました。子どもたちとグループワークを行い、建築士の仕事や発想の仕方を知ってもらうという狙いでした。子どもたちの反応は大変好評で、双方にとって学びの多い機会となりました。後継者の育成は建築業界全体の悩みであり、課題でもあります。私自身も近年あらゆる講習会に参加するたび、若い世代の姿を見ないことに危機感を覚えています。次代を担う若い建築士を育てるためにも、まずはわれわれ建築士会が魅力的な組織となるべく創意工夫し、発信していくことが重要であると強く感じております。

#### 【天理支部 平川善久】



この度は伝統技能者という表彰をいただきありがとうございます。推薦していただいた奈良県建築士会の方々、今までの現場にめぐり合わせていただいた方々に感謝と御礼を申し上げます。昔は普通であった『木を手道具で扱う技術』が減ってきておりますが、やはり日本の伝統である先人たちの大工の技を次につないでいくのは必要不可欠と考えます。

これからも日々ご縁をいただいた仕事や役割をこなしていき、それが伝統を守る一助になるよう精進してまいります。



## 令和7年度奈良県建築士会会員交流会 ～つながりましょう！建築士！～

8月22日に奈良市にて「令和7年度奈良県建築士会会員交流会 ～つながりましょう！建築士！～」が開催されました。

人とのつながりの希薄化が社会問題となっている昨今、建築に関わる様々な業種が集まる建築士会のメリットを活かし、普段、建築士会活動にあまり参加できないような方々も気兼ねなく参加できるよう、普段とは違う、カジュアルな場の雰囲気づくりに配慮しました。

当日は、参与会員及び賛助会員も含め、会場を埋めつくす84名もの方々にお集まりいただきました。

中尾会長の挨拶の後、今年度新規入会者の紹介、挨拶を行い、新たな仲間との出会いを全員で祝福しました。



続いて、坂本委員長より最近の建築士会の活動について報告いただきました。初めて参加される方や普段あまり活動に参加できない方にも伝わったのではないかと思います。また、メール配信サービスの案内も行われ、これからの建築士会活動がより周知されることが期待されます。

その後、庄田副会長の乾杯の発声後、盛大に交流会がスタートしました。



初めましての方、お久しぶりの方、参与会員及び賛助会員が、一斉に各テーブルで交流が始まり、一気に盛り上がりました。建築に関わる様々な業種が集まる建築士会の底力を感じました。同じテーブルにおられ

た方とお話すると、数年前に事務所を開設して、士会に入会し、今回このような場があることを知り、初めて士会の事業に参加してみたとのことで、まさに、今回の趣旨通り、多くの方と情報交換されていました。

会の中盤、お楽しみクイズ大会が始まりました！

クイズ部会が練りに練った建築士にまつわる(?)クイズが出題されました。

テーブルごとに答えを導き出すため、チームワークが試されます。会員同士の新たな会話が弾み、つながりがより深まりました。

ここで、第1問！『奈良公園の雌鹿と奈良県建築士会会員ではどちらが多いのでしょうか？』

正解は当日の参加者にお聞きください(笑)



会が進むに連れて、会場はマイクの音量では追いつかないほど盛り上がり、最後は城田副会長の締めの挨拶で閉会しました。

結びとなりますが、会員の交流を主目的とした事業は初めての試みで、どうすれば多くの方に来ていただけるのか、どういう内容が有意義なのかなど、坂本委員長、吉田部会長を中心に、教育・事業委員会の部会で幾度となく議論し、開催に至りました。

そして、理事、各委員会の方々のサポートで奈良県建築士会が一体となり、このような素晴らしい会を開催することができました。ご協力をいただいた皆様にこの場をお借りして、御礼申し上げます。

今後も建築士会では、参加者に来てよかったと思ってもらえる会員交流事業を今後も、企画してまいりますので、次回も、是非お越しください。



【記：教育・事業委員会 谷 幸治】



青年委員会では、2024 年に実施した「FUN 木 FES」を、9 月に開催された建築士会全国大会・おおさか大会の青年委員会セッション地域実践活動報告会にて近畿ブロック代表として発表しました。木育をテーマとしたキャンプフェスという新しい形の活動は、多くの方に興味を持っていただき、「楽しそうな事業ですね」「まさにファンキーですね」といった感想も頂きました。しかしながら、私たちが込めた“木を通じて人と森の関係性を再構築する”という意図までは十分に伝わらなかったようにも感じました。

発表の場では、一瞬、会場全体の空気がひとつになったような感覚がありました。結果は奨励賞でしたが、その短い一体感こそ、私たちにとって大きな励みとなりました。

そして 10 月 4～5 日、再び吉野町「くにすの杜」を舞台に、FUN 木 FES 2025 を開催しました。

今年も建築士、キャンプや自然環境に関心のある方々、地域の木材製材業者など、全国から約 70 名が集い、木と森の恵みを学び合いながら、衣・食・住のあり方を見つめ直す二日間となりました。搬入・撤収時には雨に見舞われましたが、開催時間中はほとんど影響もなく、予定通り全プログラムを実施することができました。むしろ雨上がりの空気が澄み渡り、森の匂いが一層深く感じられる時間もありました。

会場となった「くにすの杜」は、かつて小学校だった場所を活用したキャンプ場です。建築当時は山を切り開いて整備されましたが、廃校後の活用を検討する中で、「元の姿である山に返そう」という地元住民の声があがり、そのコンセプトのもとで整備が進められてきました。現在は自治会がキャンプ場を運営し、グラウンド跡地を中心に少しずつ植樹を行いながら、自然の再生を目指しています。

この趣旨に共感し、今年も参加者全員で苗木を植えさせていただきました。かつて学び舎だった地に再び命を吹き込むこの植樹は、まさに“人と自然がつながる”ことを体感する時間でもありました。

会場には、木工ワークショップや鉋（かんな）がけ体験、竹とんぼ飛ばし、ヨガ、ライブ演奏など、多彩な体験が並びました。

また、木を原材料に含んだ焼き菓子やスイーツ、柿の葉寿司、ジビエ料理、ワインバー、クラフトビール、日本酒バーなど、木や自然の恵みを感じられる飲食ブースも充実。焚き火の香りと音楽が溶け合い、会場全体が心地よい時間に包まれていました。そこには「学ぶ」よりも「感じる」ことを大切にした空気があり、参加者同士の自然な交流があちこちで生まれていま

した。

特に印象的だったのは、子どもたちの姿です。サイト内を自由に行き来し、他の参加者に遊んでもらいながら、まるで森と一体になっているようにのびのびと過ごしていました。植樹ワークショップでは 6 本の苗木を全員で植え、子どもたちが率先して作業を進める様子は、自分たちの未来の木を植えているかのようなようでした。大人たちはそれを見守り、支えながら、静かにその時間を共有していました。

今年も京都・和歌山・兵庫・滋賀・愛知・岐阜など、奈良県外からの参加もあり、建築士会を通じたつながりの広がりを実感しました。

振り返ると、今回は特定の誰かが中心となるのではなく、それぞれが自分の得意なことを持ち寄り、協力しながら場が自然に整っていった印象でした。建築士として改めて感じたのは、空間はハードだけでなく、人と人との関係性（ソフト）によっても形づくられるということ。モノづくりにとどまらず、コトづくりを通して人と自然、人と人をつなぐことこそ、建築士にできる新しい役割だと感じました。



子どもたちの植樹の様子



植樹後の記念撮影

FUN 木 FES は、木や森を通して地域と人を結びつける新たな試みとして、今後も継続していければと思います。木の魅力や森林の多面的な価値を多くの人と共有し、建築士として地域とともに歩むきっかけとなれば幸いです。

【記：吉野支部 向川智己】

8月27日に、ダイキン ZEB セミナー及び先進事例見学会を行いました。今回の主催はダイキン HVAC ソリューション近畿様で、奈良県建築士会と奈良県建築士事務所協会の共催事業という形で行いました。

12時30分に集合場所の近鉄大和西大寺駅南口ロータリーを出発。13時30分頃、会場となる大阪府摂津市にあるテクノロジー・イノベーションセンター（以後、TICと表記）に到着しました。



このTICは、2015年に竣工した、SRC造6階建 床面積約48,000㎡の建物です。

到着後、今回のZEBセミナー会場となる、3階の円形講義室へ移動。ここで、TICについての詳細説明やR32冷媒ビル用マルチ、DK-CONNECTなど、現在取り扱っておられる最新設備やIoTを活用した設備管理サービスについて、約90分にわたり、講義いただきました。

その後、TIC内部を見学させていただきました。

- ① パッシブデザインとアクティブデザインを最大限に活用し、環境に配慮された建築物である。
- ② 社員が働きやすい環境づくりと様々なアイデアを創出できる工夫がなされている。
- ③ ダイキン工業の歴史とあゆみについての展示館が設けられている。

など随所に工夫が凝らされた素晴らしい施設でした。



結びに、今回ご協力をいただきましたダイキン HVAC ソリューション近畿の高橋様・早川様・松山様には大変お世話になりました。この紙面を持ちまして、御礼の挨拶と代えさせていただきます。

【記：教育・事業委員長 坂本慎二】

8月25日に天理市の民泊Cofunia(コフニア)の見学会を開催し、会員外7名を含む20名の方にご参加頂きました。

コフニアは山の辺の道沿いに建つ古民家を改修した施設で、敷地内に古墳があります。客室は水・金・土・木と名付けられた4棟と、フロント、ダイニングの機能を持つ火の棟からなる建物です。



この見学会を企画したのは、斑鳩町西里にある安田邸の保存につなげたい思いからでした。安田邸は斑鳩町の購入が決まっているものの、利活用の方向性については白紙です。すでに雨漏りから傷みが進んでおり一刻も早く保全へ動き出すべき状態です。その第一歩として、市街化調整区域で敷地内に古墳があるという共通点を持つコフニアがどのように出来たのか、成功事例を勉強させて頂きました。

まず最初にコフニア共同代表の前田知里様よりコフニアのなれそめについて伺いました。『古墳付きの古民家を貰っちゃった』とSNSに書いたらバズってしまったのが始まり、という驚きのスタートから5年の間に色んな人やモノが集まって完成したお話が印象的でした。その後各室を見学、前方後円墳のモチーフがあちこちに散りばめられていたり、コンセプトごとにデザインされたお部屋がどれも可愛らしく、遊び心に刺激を受けました。

設計施工は独自の建築手法が注目を集めているTEAM クラプトンによるもので、代表の山口晶様からこれまでのお仕事についてとコフニアプロジェクトのお話を伺いました。施主はもちろん、その友人や周辺住民など多くの人と一緒に空間をつくる『DIT(Do It Together)』で、現場に泊まり込んで現場から出てきた材料も活用しつつその場でデザインしながら進めていく手法がどのように生まれたのか、今回工事のご苦労や面白さなどをお聞きし、質疑応答では途切れることなく質問が出て大変盛り上がりしました。

古民家×デザイン×DITのもつ底力を感じる事が出来たイベントでした。この学びを生かして、行政と協力しながら安田邸保存活用につなげていきたいと思っています。

【記：生駒支部 福永香奈】



## お知らせ

### ●令和8年 新年大交歓会のご案内（予定）

日時：令和8年1月16日（金）18：30～

場所：ホテルリガール春日野

### ●入会者のご紹介

福永 行洋 様（奈良支部）

高坂 阿悠美 様（高田支部）

打集 宣善 様（五條支部）



よろしく願いいたします。

### ●奈良県建築士会会員向けメール配信サービスのご案内

奈良県建築士会はメール配信のサービスをしています。  
このサービスは皆様の利便性と安全性を考慮し、登録された建築士会会員にのみメール発信いたします。

是非、このサービスにご登録いただき、奈良県建築士会の活動をさらに充実をさせてください。

登録フォームはこちら→



## 編集後記

先日、大阪・関西万博2025が閉幕しました。終盤、入場者数は連日20万人を超え、一般入場者数の合計は2557万人との発表でした。万博協会事務局の目標数には届きませんでしたが、開幕前の予想を裏切り、大いに盛り上がりを見せました。本誌でも7月号にて、各パビリオンの紹介記事を特集させていただきました。私は6月と9月に2回行くことが出来ましたが、人の多さが全然違いました。今回、チケットの取り方やパビリオンの事前予約、会場でのキャッシュレス決済、当日予約等、スマホ操作に慣れていない親にはハードルが高かったのですが、大屋根リングだけでも間近で見ることができて良かったようです。

外国人の方も多く、宿泊施設や公共交通機関等も含めて経済効果は一体どれくらいとなるのか、気になります。

「並ばない万博」や、未使用チケットの取扱いの点は、残念でしたが、今後の課題ですね。

次回、大阪での万博開催は何年後になるのでしょうか。今後、万博会場の北側エリアでは大阪IRが2030年秋頃の開業を目指して動きが活発になるでしょうから、夢洲から目が離せませんね。奈良県内においても京奈和自動車道の大和北道路の事業やJR関西本線の新駅事業、近鉄橿原線の新駅事業にと交通アクセスの向上に期待が高まります。

【記：情報・広報委員 小西直樹】

11月 12日（水）監理技術者講習  
29日（土）『災害発生後の生活再建』を考える  
シンポジウム PART II

12月 2日（火）二級・木造建築士試験合格発表  
24日（水）一級建築士試験合格発表  
29日（月）～翌月2日（金）年末年始事務局休業

## 士 会 奈 良

通巻664号

令和7年11月1日（発行隔月1回1日発行）

発行所 一般社団法人 奈良県建築士会

〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館

電話：0742-30-3111 FAX：0742-33-4333

WEBサイト：<https://nara-kenchikushikai.or.jp/>

e-mail：[info@nara-kenchikushikai.or.jp](mailto:info@nara-kenchikushikai.or.jp)

発行責任者 中尾七隆

編集 集 （一社）奈良県建築士会 情報・広報委員会



## 情報・広報委員会

委員長 伊藤 吉郎  
副委員長 小西 直樹 福田 成生  
委員 吉村 晃人 本多 健一  
高杉 明 永友 翔  
松尾 憲治 上柿 範兼  
吉田 泰造 松田 輝明  
小松原寛俊 大和 良樹  
押部 誠



田中 道子さん  
令和4年度一級建築士合格  
総合資格学院イメージキャラクター  
令和4年度一級建築士試験合格  
当学院受講生・俳優  
田中 道子さん

目の前に信頼できる講師がいるから  
一人の勉強時間も、独りじゃない。

**1級建築士 合格実績 No.1**

令和6年度 1級建築士 学科・設計製図試験

関西エリア **2桁4番** 大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県・和歌山県

**ストレート合格者占有率 68.9%**

関西エリアストレート合格者 183名中 / 当学院当年度受講生 126名

※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会「No.1表示に関する実態調査報告書」に基づき掲載しております。 ※総合資格学院の合格実績には、模範試験のみの受験生、資料購入者、資料の役務提供、過去受講生は一切含まれておりません。 ※都道府県ストレート合格者数は、（公財）建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※学科・製図ストレート合格者とは、令和6年度1級建築士学科試験に合格し、令和6年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。（令和7年1月15日現在）

**無料ガイダンス・体験講座 随時受付中!!** | **1・2級建築士** | **1・2級施工管理** | **宅建士** | **設備士**

**総合資格学院** 奈良校 奈良県奈良市西大寺栄町3-27 泉谷ビル 4F  
TEL: 0742-30-1511

株式会社総合資格の人材サービス **総合資格navi**  
（新卒採用）お問合せはこちらのQRから▶

